

9 誰もがなり得る、そして抜け出せない状況

ワーク 1

複数回答		人	回答% ※1	ケース% ※2
1	倒産・失業	369	17.5	26.1
2	仕事が減った	379	18.0	26.8
3	病気・けが・高齢で仕事ができなくなった	240	11.4	16.9
4	労働環境が劣悪なため、仕事を辞めた	71	3.4	5.0
5	人間関係がうまくいかなくて、仕事を辞めた	242	11.5	17.1
6	上記以外の理由で収入が減った	25	1.2	1.8
7	借金取立により家を出た	47	2.2	3.3
8	アパート等の家賃が払えなくなった	156	7.4	11.0
9	契約期間満了で宿舎を出た	25	1.2	1.8
10	ホテル代、ドヤ代 ※3が払えなくなった	60	2.8	4.2
11	差し押さえによって立ち退きさせられた	5	0.2	0.4
12	病院や施設などから出た後行き先がなくなった	24	1.1	1.7
13	家庭内のいざこざ	105	5.0	7.4
14	飲酒、ギャンブル	126	6.0	8.9
15	その他	236	11.2	16.7
有効回答数		2,110	100.0	149.0
有効回答者数		1,416	98.7	
無回答		19	1.3	
合計		1,435	100.0	

「ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）の調査結果（全体版）」厚生労働省（平成29年9月）より作成

※1 回答%：有効回答数(2,110人)に占める割合 ※2 ケース%：有効回答者数(1,416人)に占める割合

※3 ドヤ代：宿屋に払う宿泊料金のことで、主に簡易旅館を示し、「やど」を逆さまに言った俗語

(1) 表は「ある状態」になった人たちが、その状態に至った主な理由を答えたものです。どのような状態になった人たちでしょうか。

(2) (1) の状態の生活は、どのようなことに困るのでしょうか。

(3) もし、あなたが(1)の状態になったら、その状態から脱するために、どのような方法を取ると思いますか。

ワーク 2

- (1) 資料「若者ホームレス50人聞き取り調査 若者ホームレスの声」を1人1枚読み、当事者の状況について、次の視点を中心に整理してみましょう。

- () さん
- ア 就職や仕事上の困難について
- イ 家族との関係について
- ウ 路上生活の現状で社会復帰できない状況について
- エ その他、気づいたこと

- (2) ワーク 1 (3) で考えた方法で、ホームレス状態から脱することができるでしょうか。また、どのような困難があるでしょうか。

- (3) (1)、(2)の内容について、グループで意見を交換し、気づいたことや考えたことを書きましょう。

ワーク 3

今回の学習をとおして、気づいたことや考えたことを書きましょう。

■資料

「若者ホームレス白書 当事者の証言から見えてきた問題と解決のための支援方策」特定非営利活動法人ビッグイシュー基金（2010年12月）より

《若者ホームレス 50 人聞き取り調査 若者ホームレスの声 ①》

フリーター、ニート状態を経て路上へ

Aさん 30歳

関東地方出身。両親、姉の4人家族。高校卒業後は、大手電気メーカーのグループ会社へ就職するが2年半でリストラに遭う。

その後アルバイトと派遣を繰り返すが、その状態を家族は快く思っておらず、関係が悪化し、路上へ。

家族は姉と両親の4人。ごく普通の家庭だったと思います。高校では私立の工業科に行きました。入学金だけで百万円以上して授業料も月十数万円かかるんです。家にどうしてそんなお金があったのか、わからないんですけど、そのおかげで、卒業後、大手電気メーカーのグループ会社にすんなり入れたんです。面接では「お酒はどれくらい飲めるの？」って聞かれただけ。

部品センターで出入庫管理をやっていました。給料は高くなかったけど、残業もほとんどなくて、不満はありませんでしたね。実家から通ってたので、給料の半分を家に入れてました。ところが入社3年目の1999年に人員削減によるリストラに遭った。年齢はさまざま。僕みたいに若いのも年寄りもいましたね。

その後、失業保険もらってハローワークで仕事探しましたが、なかなか見つからない。人見知りなんで、接客業とかダメなんです。だから仕事が限られちゃう。衣料品店の倉庫とか、漬物工場とか……いろんな派遣やったけど、どこも短期契約なんです。仕事がない時は部屋にこもってゲームしたりして時間をやり過ごしてました。ニートみたいなものですよ。

親にすればいつまでたってもまともに働かないように思えるんでしょう。「正社員で働け、バイトじゃダメだ」って散々言われて……どんどん関係が悪化していきました。家を出た時は本当に勢いだった。仕事してなくて、親と大げんかして。

親には申し訳ないと思ってる。高い授業料払って高校行かせてくれたのにこれじゃあねえ。両親はもういい年だから心配。どっか正社員決まったら、菓子折もって実家行って、一晩泊まってじっくり話したい。本当はここから電車乗れば、1時間ちょっとで帰れるんだけどね。たった1時間の距離なのに、ブラジルより遠く感じる。でも今のままじゃ顔向けできないですからね。まさにこれから親孝行できるって時になったら、電話一本かかってきて「亡くなりました」ってことがあるのかもしれない。そうしたら「海外旅行の一つでも連れて行ってあげればよかった」って後悔するのかな。

家を出てからは路上でアンケートやってそれでもらえる図書カードなんかを換金して食いつないでた。炊き出しとかは、雰囲気苦手でほとんど行ったことない。家がないから“ホームレス”なんだけど、ホントのホームレスじゃないっていうか……そういうプライドみたいなのあるんですよ。

最近30歳になりました。会社に入った18歳のころは、その頃には結婚して子供が2人くらいはいると思ってたから。でも今はもう、はるか向こうにある感じですね。

《若者ホームレス 50人聞き取り調査 若者ホームレスの声 ②》

児童養護施設を経て路上へ

Bさん 23歳

近畿地方出身。両親の離婚により、児童養護施設に預けられる。中学卒業と同時に大阪の工場へ就職し、工場の寮で暮らす。約7年勤めた後に退職。児童養護施設へ戻り、就職の相談をするが見つからず、仕事を求め上京する。しかし、仕事は得られず、路上へ。

施設に入ったのは1歳です。物心つくずっと前です。だから母親の顔は知りません。理由は離婚だそうです。父親が親権取ったんですけど、マグロの遠洋（漁業）をやったんで、面倒を見られないので施設に預けられました。

中学のころイジメに遭って、それが原因で不登校になったんです。勉強も得意じゃなかったんで早く働きたいなと思って中学出たら就職することに決めたんです。

就職先は施設の先生が紹介してくれました。大阪の繊維工場です。施設の先輩がその工場に行っていたんで、安心感があった。正社員の仕事です。保険もありました。給料は18万円くらい。悪くないと思います。最初は昇給があるとか、新しい仕事を少しずつ覚えさせてくれると言われていたんですが、ずっと同じ仕事で上にも上がれなくて、それに不満を覚えました。機械が相手というのもちょっと……。接客業とか新しい仕事をやってみたいと思って、それで退職しました。もっと別のことを経験してみたかったです。

一度地元帰って施設の先生に相談して、仕事のあてを探してもらったんですけどなかなか

か難しいような状況で。施設に戻ることはできないですから。その間は外（路上）にいました。迷惑かけるわけにもいかないんで。泊まる場所がないってことは先生には言い出せませんでした。

姉と妹がいて、連絡先は知ってるんですけど、二人とも忙しいんです。姉の方は朝と夜で二つ仕事を掛け持ちしているような状態。妹は車じゃないと行かれないような場所にいたんで、会えませんでした。友だちも頼れる人もまったくなくて。貯金とかはなかったです。自分はよく食べるんでご飯代とか、洋服代とかで消えちゃって。失業保険はハローワークで手続きできたはずなんですけど、やり方がよくわからなくて、施設の先生に相談したら、「手続きとってても面倒くさいよ」って言われてそのままになっちゃいました。

地元には4ヶ月ほどいましたが、自分のいたところは田舎なのか、仕事がほとんどない。だから都心に行くしかないかなと思って、施設の先生からお金を借りて、夜行バスで東京に来たんです。東京ではハローワークに何回も行きました。面接まではこぎつけたこともあるんですが、自分が今こういう状態（住所がない）だと話すとそれが不利になって落とされてしまうんですね。住む場所もお金も携帯も持ってないですから。そんなことが何回も続いて、精神的に参ってしまいました。今はうつっぽくて、仕事を探す気力が沸いてこないんです。

《若者ホームレス 50 人聞き取り調査 若者ホームレスの声 ③》

ひどい家族から逃げ出して

Cさん 27歳

東北地方出身。中学卒業後、上京。板前修業を経て、定時制高校に通うも中退。その後、地元に戻り製菓工場で派遣社員として働くが、工場閉鎖により職を失う。上京しネットカフェに泊まりながら職を探すも見つからず、路上へ。

今でいう虐待、受けてたんです。父親の暴力もあったけど、何より無視されてたのがきつかったですね。弟が生まれてからひどくなって、「勝手にやりなさい」って母親に言われて……飯に呼んでももらえない。家族がいない時間、一人で残り物とか食べてました。父親は自衛官なんです。自衛隊なんて死んでも行きたくないのに、『中学出たら自衛隊入れる』って毎日どやされてました。そんな状況を中学の担任だけは知ってたんです。それでいよいよ進路を決めなきゃいけないって時に「東京に先生の知り合いがやっているお寿司屋さんがあるんだけど働いてみないか」って勧められたんです。「高校はいつでも行かれる。親元を離れるほうが先だ」って言ってくれて、親に直談判してくれました。

15歳から修行始めたんですけど、学校行きたいってずっと思ってた……。板前は自分で選んだ仕事じゃないって思いもあったんで、やりたいことを探す意味で20歳の時、定時制高校に入学したんです。その担任が手続きとかいろいろ教えてくれました。でも寿司屋は夜仕事あるから定時制通えないんで、それで辞めて新聞奨学生になって住み込みで働きながら、高校に通うことになりました。でも結局仕事忙しすぎて、高校は卒業できず、1年

で辞めちゃったんですけどね。

ある時、元担任からしばらくぶりに連絡が入ったんです。何かと思ったら、「両親が離婚するとかで、母親が会いたがっている」ってことだったんですけど、でも連絡しませんでした。それから半年くらい経って、東京での仕事がうまくいかなかったんで、地元で仕事探そうと思ってすごい久しぶりに帰ったんです。実家がどうなってるか見に行ったら、家があった場所は「売地」になって、住んでいた家は跡形もなくなっていました。今家族がどこでどうしているのかわかりません。まあ自分には関係ないことなんでどうでもいいですけど。

地元に戻ってからは、製菓工場の機械オペレーターの仕事をしてました。いわゆる製造業派遣です。派遣の世界は厳しい弱肉強食の世界。自分の持ち場を与えられたら「ちゃんとできます」って強くアピールしないとほかの派遣にとられちゃう。工場でも作業によって死にそうにキツイものと比較的楽なものがある。立場が弱いとキツイ作業にまわされたり、いろんな持ち場をグルグル回されちゃうから、仕事が覚えられなくてへまするっていう悪循環に陥るんです。5年経った時、工場の中国移転が決まって閉鎖になっちゃったんです。遅配されてた給料も結局支払われず、寮を出るしかなかった。地元で仕事探すより、東京でネットカフェに泊まりながら探した方がいいと思って上京。でも結局見つからなくて所持金ゼロになって、路上に行くしかありませんでした。

《若者ホームレス 50 人聞き取り調査 若者ホームレスの声 ④》

製造業派遣を転々として

Dさん 36歳

東北地方出身。高校卒業後、就職。農産物加工会社、警備員等を経て、製造業派遣へ登録。2年ほどの間に7ヶ所の工場を転々とするが、人間関係がうまくいかず、派遣の寮を飛び出して以来、路上生活を続けている。

子どものころは活発で、勉強も得意なほうでした。父親が青果業を営んでいたんですが、経営がうまくいかなくて高校に上がるころに倒産。両親は離婚し、父親は家を出て行きました。サラ金からしょっちゅう電話がかかっていたので、子どもながら家の状態はうすうすわかっていたつもりです。「早く働いてお金を返すのが当たり前」という雰囲気があったんで、大学進学とかは考えなかったですね。

高校卒業後は、地元の農産物加工会社に正社員として就職。でも単純作業に飽きてしまって3ヶ月で退職しました。そこを辞めた後は地元の警備会社で2年ちょっとアルバイト。社員になる機会もあったんですけど、家計が苦しかったのであきらめました。保険とか年金とかいろいろ引かれるじゃないですか。そうすると手取り下がって生活できなくなっちゃうんですね。それから2年ほどは土木とか、原発の作業員として単発で働きました。でもそういう仕事もどんどん減ってしまって、地元で長期の仕事を探していたんですが見つからず、製造業派遣に登録することにしました。

それから5年ほどはあちこちの工場を転々としてきました。短いと1ヶ月、長くても6ヶ月ほどで生産調整とか、作業終了とかで別の工場に回される。一番いやだったのは人間関係

ですね。契約社員とか期間工とか、正社員とかいろいろあって、その人たちとは口も聞かないってことが当たり前でしたね。仕事内容はほとんど変わらないのに、派遣というだけで下に見られてバカにされる。この仕事をいつ切られるかわからない、今日かもしれない、明日かもしれないっていつも不安に思いながら働いてましたね。

最後のカーエアコンの工場では、リーダーと呼ばれる係長が最悪でした。完全無視されて一言も口を聞いてくれない。それでもガマンにガマンを重ねたけど、派遣を人と思わないような態度に完全に頭来て、ある日爆発して、夜逃げ同然に寮を飛び出しました。その時、母親と妹は実家に身を寄せていたんで、帰る場所はありませんでした。

今の状態を変えたいとは思っているんですけどね。でも基本的に転職繰り返して、何のスキルも身につけていない自分に就職なんて厳しいでしょう。できて製造業派遣か警備員くらい。でもどっちも厳しい仕事だし、条件的にも難しいし、ああいう仕事をするなら今のまま（ホームレス状態）でいいかなと。

人間関係のごちゃごちゃとかも苦手なんです。以前、ホームレス支援のNPOから整骨院の仕事を紹介されたことがあったんですよ。興味はあったんですけど、条件等が書かれたファックスの文字が殴り書きみたいにされて、大事にされない感じがしたんで断りました。疑り深くなっちゃってダメですね。何の会社に入ってもうまくやっていけるか自信がないんですよ

解説 9 誰もがなり得る、そして抜け出せない状況

1 ねらい

近年、20歳代30歳代の若いホームレスが増えつつある。彼らは、路上にいるよりも、ネットカフェやファストフード店といった終夜営業店舗などに滞在していることが多く、見えにくい存在となっている。

「ホームレスの状態」に至るまでには、様々な背景が複雑にからんでおり、その一つひとつは誰にでも起こり得る課題であるため、身近な問題であることを理解できるように学習を進めたい。

2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (10分)	
① 表を見て答える。 (1)	○ ホームレス状態に至った理由が様々であることを伝える。
② (1)の状況を具体的に想像する。 (2)	○ 状況に応じて、キーワードを挙げて、具体的に想像できるように促す。
③ 自分の考えを書く。 (3)	○ 生徒が自分のこととして想像できる状態を設定するように伝える。
④ 例示を聞く。 (3)	○ 参照資料「路上脱出ガイド」から、様々な状況に合わせた支援があることや、ホームレスの状態への即効性のある対応策は今のところ少ないことを伝える。 ○ ホームレスの定義について、法的には路上などで生活している人とされている。しかし、ネットカフェやファストフード店といった終夜営業店、友人宅、安い民間の宿などに滞在し続ける人、安定した住居をもたない人もホームレスに含めて実態を把握し、支援すべきだという意見もあることを伝える。
2 ワーク2 (30分)	
① グループ内で資料「若者ホームレスの声」を分担して一人ひとりの状況を整理して書く。 (1)	○ 客観的な事実を整理するように伝える。

② 自分の考えを書く。 (2)

③ グループ内で発表し合い、意見交換をしながら気づいたことや考えたことを書く。 (3)

3 ワーク3 (10分)

① 今回の学習をとおして、気づいたことや考えたことを書く。

○ 様々な事情があることや、積極的に支援を受けることができない背景をふまえて考えるように促す。

○ 家族関係が希薄な点、人間関係の構築が苦手な点、再就職が困難な点、自信を失っている点、住居が無い点などがさらなる困難につながることを挙げ、ホームレスが陥っている孤立した状態への気づきを促す。

○ 様々な背景が複雑にからみ合い、ホームレス状態からの脱出を困難にしていること、誰にでも起こり得る課題であり、偏見や固定的なイメージを抱かないように注意すべきことを伝える。

3 解説

(1) ワーク1について

表は、「ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）」（厚生労働省 平成29年9月発表）の、路上（野宿）生活をするようになった主な理由についての調査結果である。

(1) について、回答はホームレスの状態であるが、その主な理由は多岐にわたり、その他の割合も多い。

(2) について、ホームレスが困る内容の例としては、食べ物が十分でない、寝る場所を見つけられない、雨や寒さをしのげない、入浴、洗濯などができなくて清潔に保つことができない、ホームレス同士のいざこざ、ホームレス以外の人にいやがらせを受けている、立ち退くよう言われている、お金がなくて電車に乗れない、体調が悪い、病気にかかってしまう、雨や台風時に物が飛ばされたり流されたりする、荷物や道具を盗られる、などが挙げられる。

(3) について、今から10年後や就職して3年後、失業するなど、生徒が自分のこととして想像できる状態を適宜設定するような声かけをして考えさせたい。

生徒の考えとしては、家族や友人に頼って、衣食住を確保した上で、仕事をする、仕事を探すためにハローワークに通うなどが予想される。

実際には、福祉事務所などの公的機関への相談、生活保護制度の利用、福祉制度の利用（巡回相談員への相談）などがある。また、一時的な宿泊場所であるシェルターに一定期間入所して、食事、健康管理、生活相談、職業相談を受け

ることや、就労による自立をするための施設（自立支援センター）に通うこともできる。その他のホームレスに対する公的支援として、住宅の斡旋や宿泊事業、健康診断、食糧支給、衣類の支給や民間団体の支援として「炊きだし」「衣類・日用品・寝袋等提供」がある。

ホームレスは、路上生活からの脱出、自立をめざすが、ほとんどの人は、自分がホームレスになると想像したこともないため、どのような支援があるかなどの具体的な知識や情報をもっていない。支援・啓発のため、「路上脱出ガイド東京23区編 住まいが無くて困っているあなたへ」といった小冊子を作成し、様々な状況に合わせたガイドを示している団体もある。この団体は「ホームレス＝路上生活者」と考えるのではなく、そこに至るプロセス全てを視野に入れることが予防や支援を考えていく上で重要だとして、「屋根が無い状態（路上生活）」に加えて「屋根はあっても家が無い状態（ネットカフェやファストフード店といった終夜営業店、友人宅、安い民間の宿などに滞在しつづける、安定した住居をもたない人）」を「ホームレス状態」と定義している。ある日突然、住居を失い、路上で生活するようになるのではなく、不安定な就労や不安定な滞在先を経て、徐々に路上に近づいていくというプロセスがあることをイメージできるようにしたい。

（２）ワーク２について

ホームレスは、いったん野宿などの極度の貧困におかれたため、元の生活に戻ることが、とても難しいという理不尽な状況にある。「ホームレスは甘えているだけだ」「頑張れば、仕事は見つかる」という意見については、本当にそうなのか問い直す必要がある。

（１）について、ホームレスの状況には、景気の悪化によるリストラ・倒産といった雇用情勢の悪化や教育を十分に受けられなかったこと、家族関係が希薄であること、仕事が見つからないことなどが挙げられる。さらに、学校で受けたいじめやこれまでの職場での過酷な労働体験から人間関係の構築に苦手意識をもったり、仕事をする自信や現状を変えようとする意欲を失っているなどの目に見えにくい困難も挙げられる。

（２）について、ホームレスは、住居がないという決定的な困難を抱えている。住居を失うことが、再び仕事を得る上でいかに重い足かせになるのかについて、しっかりと考えさせたい。

（３）についてホームレスの多くは、家族、友人、公的機関などとのつながりを失っており、孤立した状態だということが、ホームレス状態からの「脱出」を難しくしている点に気づくような声かけをする。

(3) ワーク3について

ホームレス状態にある人の具体的な困難について学んだ上で、様々な背景が複雑にからみ合い、ホームレス状態からの脱出を困難にしていること、その一つひとつは、誰にでも起こり得る課題であり、誰もがホームレスになる可能性があるという身近な問題であることを知らせ、ホームレスを偏見や固定的なイメージで捉えることをせず、当事者が直面している辛さや苦しみを「自己責任」に帰することなく、生徒にとっても、他人事ではない身近で切実な問題であることを認識させたい。

<参照資料>

「路上脱出ガイド 東京23区編 2015年8月改訂5版」路上脱出ガイド（東京23区編）作成委員会
22-23 ページ <https://bigissue.or.jp/action/guide/#section05>

<参考資料>

「若者ホームレス白書 当事者の証言から見えてきた問題と解決のための支援方策」
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金（平成22年12月）
ビッグイシュー基金ウェブサイト
「若者ホームレス白書② 他者とつながって生きられる社会へ」
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金（平成24年3月）